



Haf a A d a i

令和6年1月31日
グアム日本人学校
学校だより
2月号
校長 井手瑞樹

感じる事が学びの原点

1月1日から日本では大変な災害が発生しました。能登半島地震です。地震大国「日本」では頻繁に起こる現象ですが、当事者の方々にとってはつらいこと、この上もありません。直接地震の被害に遭ったことのない方も、被害に遭われた方の心の痛みはひしひしと伝わってくることでしょう。おそらくそれは、その痛みを、まるで今ここで起こったことのように自分自身で感じる事ができるからに違いありません。そうでない人にはわからないことです。



さて、我々はこのから一つの教訓を得ることができます。それは、まず「感じる」ということの重要性です。その後、考えること、行動することが伴うからです。次の例を考えてみてください。

令和5年5月19日から21日、G7広島サミットが開催されました。広島は岸田首相の地元であり、第二次世界大戦末期に、原爆が世界で最初に落とされたところです。このサミットにおいて、岸田首相は、世界の様々な問題を議論する中で、原爆の悲惨さを訴え、核軍縮・不拡散を進めるという大きな目的がありました。彼は、広島原爆記念館に世界各国の首脳を招き、原爆被害の状況を見てもらい、日本国民は、その様子を固唾を飲んで見守りました。ところが、多くの日本国民は、期待したほどの反応の無さに、おそらく落胆の色を隠せなかったことでしょう。次の言葉が、そのことを物語っています。



「G7の首脳たちは『広島』を理解する前に、感じてほしい。」

また、次の例を挙げてみましょう。昔、ブルース・リーというアクション映画スターがいました。私は、彼の大ファンでしたが、その代表作である「燃えよドラゴン」という映画の中で、彼は、弟子に言いました。「あの月を見なさい。」すると、弟子は、月を見ながら、師匠の意図を汲もうと一生懸命考えています。そこで、ブルース・リーはこう言いました。

「考えるのではない。感じるのだ。」

まさに、学ぶことの神髄がここにあると思います。私は、子どもの頃、「社会科」が苦手でしたが、それは、自分の心が動かなかったからです。「何年に誰が何をどうした」などといくら教えられ、覚えさせられても、記憶に残らなかったのです。また、それ以上に追究しようという意欲も湧きませんでした。今考えれば、その史実が起こった背景やその時の人物の気持ちなどを、現代の我々の感覚に響くように教えてほしかったなあと思います。逆に言えば、それが学びの極意であるといえるのではないのでしょうか。世の中の出来事の根底には、人々の感情がうごめいているということでしょう。一方、私は数学には魅せられてしまいました。完璧な論理には、美しさを感じるものです。「博士の愛した数式」という小説に

「道ばたの一輪の花に、宇宙を感じる」



という一節がありますが、数学にはロマンがあり、無限の雄大さがあるということです。

グアム日本人学校の子どもたちには、豊かな感性をもって、意欲的に学び続けてほしいと思っています。洋々たる彼らの未来に、幸多きことを祈ります。